

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 長久手市立東小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 480-1102

愛知県長久手市前熊前山174番地

E-mail nehibuns@hm9.aitai.ne.jp

Website http://www.hm5.aitai.ne.jp/~nehigashi/

幼児児童生徒数 男子 138名 女子 149名 合計 287名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「はばたけ長久手の未来に 心育む伝統芸能と福祉交流」を活動テーマとして、ESDを自ら気付いて考える自発的な学びの場として捉え、ESDの実践を通して、自分と人とのつながりや過去から未来へのつながりに気付き、行動しようとする力を育てることを目標とした。

具体的には、伝統芸能の継承、福祉を柱に、①伝統芸能の継承や地域との交流に関わる活動②福祉に関わる活動③平和や食育に関わる学習を行った。

### ① 伝統芸能の継承や地域との交流に係わる活動

地域に伝承される「ざい踊り」の継承活動とその披露を行った。3年生では、毎年外部講師を招き「ざい踊り」を教えてもらっている。長久手の東部にある一定の地域に、明治の初めごろから伝わるもので、先祖の供養のために踊るものである。本来は女子のものだが、男子も共に指導を受け、10時間の中で、踊りの習得、ざいの作成、修繕を行う。11月の学習発表会で、保護者や地域の人たちの前で披露した。また、1、2年生ではお世話になっている地域の方を招いて、一緒に給食を食べるなどの交流会をもった。

## ② 福祉に関わる活動

ユネスコ委員会、児童会及び、4年生以上の有志により、福祉交流会を行った。校区内にある小規模特別養護老人ホームを訪問し、歌や簡単なゲームで交流した。今年度で7回目となり参加希望者も年々増加している。その場で、お年寄りの似顔絵を描きプレゼントをした。訪問まで、休み時間を活用して準備や練習を行うのだが、交流の後はどの児童も、高齢者から労われ喜ばれたことに自分自身も役に立てたという喜びのあふれる表情を見せていた。

## ③ 平和や食育に関わる教育

講師に長久手市の元教育長を招いて、6年生が平和について学んだ。戦争体験を聞くと同時に、今、身近なところでも起こりうることだと気づくことができた。平和は、続くものではなく続けるものだという思いを心に刻んだ。

毎日の給食に時間には、食べるとことの大切さ、食べ物やそれに関わる全ての人や物に対する感謝について学んでいる。給食委員会の放送による呼び掛けや、「もったいないウイーク」（なるべく食べ残しをなくそう）の取組などで継続的に行うことができた。



## (2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学校行事 休み時間 授業後 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>年度当初の学校目標の中にユネスコスクールとしての位置づけを示し、現職教育の柱としてもESDの理念を明記している。</p> <p>ユネスコカレンダーを作成し、全学年の活動の流れを分かりやすく示すとともに、学年間あるいは他教科などとの関わりについても示している。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール担当教員を数名配置し、ユネスコ委員会、児童会、各委員会、現職教育等に中心となって関わられるようにしている。児童、保護者に対しては、学校便り及び児童集会等で活動について広報活動を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェ

各行事や取り組みについて、児童及び職員が振り返りを行う。年度末に向けては、次年度への反省から問題点を出し、次年度の活動に生かせるようにしている。また、学校評価として、保護者にもアンケートの形で評価をしてもらっている。

継続して取り組んでいる活動で、児童にとってはかなりユネスコスクールに対する理解が進んできたが、低学年及び保護者についてはまだまだと思われる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

学校便り、学年だより、各委員会の発表。活動について示したタペストリーを毎年作成し、掲示している。ユネスコルームを設置し、活動の足跡や、時期に合わせて呼び掛けたい事柄について、掲示物等で発信している。

各学年、各委員会の様々な活動が、ユネスコスクールとして、ESD の理念に基づいて行われているという意識は高まってきていると感じる。よりよい長久手の未来についてのアイデアをもつ児童は増えてきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

今年度は、地域の特別養護老人ホームとの「福祉交流会」だけでなく、地域でお店を営む方を学校に招待したり、新1年生に対して毎年手作りの交通安全マスコットをプレゼントして下さっている地域の方々に感謝を伝える会を催すことができた。

愛知淑徳大学生と、校区にある介助犬訓練センター「シンシアの丘」のトレーナーさん、及びPR犬による「介助犬を知る会」も今年で5回目となった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）  
※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、交流が持てず、残念に感じている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

児童における、自発的な活動への興味関心が高まっている。広い世界に目を向け、自分にできることは何かないかと考える児童が特に高学年で増えている。一方、低学年では、身近な地域の人々と関わる活動に、積極的に取り組む姿が見られるようになった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

これまでの活動「伝統芸能の継承」「福祉」については、継続する方向で、さらに改善を考えていきたい。学校規模が大きくなる方向にあるので、今後を見据えての取り組み方を工夫していく。

学校内の環境整備として、現存する「プレーゾーン」の安全性や樹木の整備を行う。児童が遊ぶ場所としては、枝葉が多くうっそうとしている。また、樹木の種類が乏しく季節感があまり感じられないなどの点を改善できるように、職員、委員会、業者などで協力して取り組んでいく。

外部講師による出前授業などは、今年度も「環境」「平和」「健康」などの面で数多く行われた。各学年の活動に応じて来年度も取り入れていきたい。また、今年度行われなかった「ユネスコスクール教育講演会」を開催する予定である。保護者の参加も期待したい。

来年度は、さらに「国際理解」をもう一つの柱として取り組みたいと考えている。